

令和6年度 福岡市介護実習普及センター運営委員会議事録(要旨)

1.開催日時 令和6年12月16日(月) 10時00分～12時00分

2.開催場所 福岡市市民福祉プラザ6階 602 研修室

3.会議次第

(1)開会

① 委員紹介

(2)報告事項

① 令和5年度福岡市介護実習普及センター事業及び住宅改造相談事業の実績について

② 令和6年度(4～9月)福岡市介護実習普及センター事業及び福岡市障がい者高齢者住宅改造相談事業の実施状況について

(3)協議事項

① 福岡市介護実習普及センター事業・福岡市障がい者高齢者住宅改造相談事業の実施状況の評価について【非公開】

② 令和7年度福岡市介護実習普及センター事業及び福岡市障がい者高齢者住宅改造相談事業計画(案)について

(4)閉会

4.出席委員 吉村委員(委員長)、清水委員(副委員長)、須佐委員、細川委員、岡部委員、藤村委員
※伊原委員 欠席

5.報道機関取材者及び傍聴者 <一部公開>

報道機関:無 傍聴者:無

6.議事概要

(1)開会

① 委員紹介

(2)報告事項

① 令和5年度福岡市介護実習普及センター事業及び住宅改造相談事業の実績について

② 令和6年度(4～9月)福岡市介護実習普及センター事業及び福岡市障がい者高齢者住宅改造相談事業の実施状況について

→介護実習普及センターより資料2、3に基づいて説明

【質疑・意見】

別紙のとおり

(3) 協議事項

- ① 福岡市介護実習普及センター事業・福岡市障がい者高齢者住宅改造相談事業の実施状況の評価について 【(3)①評価については非公開】
- ② 令和7年度福岡市介護実習普及センター事業及び住宅改造相談事業計画(案)について
→事務局より資料5に基づいて説明

【質疑・意見】

なし

令和6年度介護実習普及センター運営委員会議事録別紙

委員	オンライン講座は、複数の講座で実施しているのか。
(センター長)	令和6年度は「スキマ時間を取り入れよう！骨盤底筋体操で尿漏れ予防」のみ。ほかの講座でもオンライン・オンデマンド実施を検討しているが、「オンデマンド」「オンライン」の意味を理解いただけない方も多く、今後必要性について検討していきたい。
委員	介護講座のアンケートの結果について。全体的に「役に立つ」、「わかりやすい」という回答が目立ち、いい内容と思う。一方、少数かもしれないが受講者の中には介護関係の仕事に従事していないおおり、「わかりにくい」と回答した人もいる。この人たちに向けた改善状況は。
(センター長)	介護保険制度や認知症の人の制度（成年後見、金銭管理）など、制度に関するところが難しいという意見をいただくことが多い。講師にも、わかりやすい言葉遣いにしてもらうようお願いしているが、わかりやすく言い換えるとニュアンスが変わってしまうこともあるので難しさを感じている。
委員	講座の内容に難しさを感じる方へのフォローは可能か。
(センター長)	資料や講座において詳しく説明すると、アンケートで「わかりやすい」と回答割合が増えるので、そういった工夫を行うよう心掛けている。
委員	家族介護者のつどいは、地域にはそのような場がない。ご家族の支えになるこのつどいはとてもよい取組みと思う。
(センター長)	家族介護者同士のコミュニケーションを通じて、価値観の違いやよりよい解決方法などを話されて、参加者の皆様はすっきりして帰られる。様々な講師を招き、癒しに関するテーマを取り入れている。
委員	相談者の、高齢者と障がい者の介護の割合は。
(センター長)	住宅改造相談センターの実績を見ると、高齢者の相談が75%を占めている。高齢者のほうが多い傾向あり。
委員	コロナが落ち着くにしたがって介護実習普及センターの来訪者は増えているが、住宅改造相談は令和4・5年度で減少している。理由はあるのか。
(センター長)	明確な理由はわからないが、バリアフリーを意識した住宅が増えてきているようで、相談数の減少には最近の住宅事情が絡んでいるのではないかと考えている。
委員	住宅改造について、施工業者からの相談が一番多いとのことだが、内

	容はどのようなものか。
(センター長)	ご本人やご家族から寄せられた相談について、業者から相談が寄せられるもの。相談数は累計で計上しているため、複数回調整を行う業者の数が多くなっている。
委員	高齢者の福祉制度を含め、どのような制度があるのかわかりづらい。身体障がい者の中でも、人から「こういうのがある」と聞いて知ることが多い。そういった制度をわかりやすく周知できる方法があるという。
(センター長)	広く制度を知ってもらうためにできることを常に考えているが、まずは個別相談・関係機関からの相談において、市が作成している制度が分かりやすくまとめられた資料の提供を心掛けている。また、最近は講座の中で関連の制度を紹介してもらい、情報発信をしている。
委員	今後、核家族化も進む中でこどもや学生へのアプローチが重要になると考えられるが、学校での介護講座の反応は。
(センター長)	小・中学校での出前講座で高齢者の疑似体験をするととても反応があり、白内障になった時の見え方、手の触感の体験などを通じて高齢者への接し方を改めるようになったという感想が多く寄せられる。また、夏休みには自助具製作教室を開き、保護者と一緒に参加してもらい、生徒の意識向上に努めている。